

和光市民のためのコンサートを
いつの日か実現したいですね!

WAKO BASS SCHOOL



チェロ・コントラバス専門という全国的にも珍しい音楽教室。楽器はレンタルできるので、手ぶらで通える手軽さも魅力



▲プロの演奏家として輝かしい実績を持つ白佐さんと妻の芽生さん。8名編成のオーケストラを組み全国各地をツアーしている



▲教わる方も教える方も真剣そのもの。年齢層は10代から70代と幅広く、生徒のなかにはプロのジャズプレイヤーもいるとのこと



▲おしゃれな「へ音記号」のモニュメントが目印です



[WAKO BASS SCHOOL]
下新倉2-17-7 ☎070-8569-1905
営業時間/10:00~22:00(不定休)
<https://www.wako-bass-school.com>

WAKO BASS SCHOOLからのお知らせ!

8月中、先着10名様に30分の体験レッスンを無料で提供させていただきます。電話又はHPより、お早めに申し込みください!

コロナ禍に負けることなく、元気に明るく頑張る和光市の商店や事業所。今回は、プロの演奏家が教えるチェロ・コントラバス専門の音楽教室「WAKO BASS SCHOOL(和光ベーススクール)」のご紹介です。

代表の白佐 武史さんは、音楽事務所の代表も兼任するプロのチェロ奏者。高校生まではロックバンドでベースギターを担当していたものの、初めて聴いたチェロの音色に衝撃を受け一念発起。武蔵野音楽大学へ入学し、卒業後はプロの演奏家として新日本フィルハーモニー音響楽団に参加するなど輝かしい実績を重ねてきました。

そんな白佐さんの妻・芽生さん(演奏家としては旧姓の出町 芽生で活動)はクラシックが大好きな音楽一家で育ち、中高ともに吹奏楽部で活躍。白佐さんと同じ武蔵野音大でコントラバスの演奏を学び、卒業後はハンガリー、ドイツ、オーストラリアなど世界各地で演奏を披露してきました。

そんなお二人がスクールを始めたのは2016年。大学生のころから「住みやすそうな街だな」と感じていた和光市に家を買って、1階のリビングを防音ルームに改装しオープンしました。「チェロ・コントラバス専門のスクールは非常に珍しいことから、地元の方々はもちろん遠方からも足を運ばれる方もい

らっしゃいます」と白佐さん。

現在はそれぞれの活動のほか、6名の演奏家とともに8名編成のオーケストラを結成し、全国の小中学校などをツアーしているお二人。芽生さんは「一時はコロナ禍により活動が制限されてしまいましたが、多くの方に音楽の素晴らしさをお届けできたらと思います」と目を輝かせます。

「だからこそ実現したい夢があるんです」という白佐さん。「和光市にはせっかく素晴らしいホールがありますので、ぜひとも和光市内の演奏家の方と和光市民のためのコンサートを開催できたらと。「我こそは」という方は、ぜひお気軽にご連絡ください!」と力強いメッセージをいただきました。和光市民による和光市民のためのコンサート——実現する日が楽しみです!



▲スクールの代表・白佐武史さん(左)と妻の芽生さん(右)

今回の取材の様子を動画で公開します。ぜひご覧ください
(YouTube)▶



今回は、産地直送の食材を使った創作料理店『 Tanto Tanto 』です!

しばさき市長の 一歩前へ! ⑪

和光理研インキュベーションプラザ



和光理研インキュベーションプラザは、理研の隣にある、スタートアップ企業を応援する施設です。プラザ内に入居している企業5社を見学させていただきました。

1社目は、苔に物質を吸着させる技術を研究している会社で、盆栽少年だった社長は、理研で苔の研究をされ、現在は苔で環境保護を目指しているとのこと。2社目は、体臭を客観的に評価する会社です。着用したTシャツから採取した「ニオイ」を機械で分析、対処法を教えるだけでなく、社長の「鼻」での判断も行っているそうです。3社目は、植物工場をプランニングしている会社で、福島県に工場を建設し、レタス類の栽培をしています。プラザ内ラボで、栽培技術の研究をされています。4社目は、ダイヤモンドを使った工具の研究所です。半導体は精密性を求められるため、研磨機もμ(1/1000m)単位の調整が必要とのことで、顕微鏡を覗きながら、調整をされていました。最後は、食品等の素材の分析をして、商品開発支援をされている会社でした。チョコレートのテンパリングを正確に行うことで、出来上がりに大きな差が出ることを、実際に試食をさせていただき実感しました。

どの会社も社長の熱意が高く、今後は何か市と一緒にできないか、と考えています。市内にこのような多様な企業があることは誇りであり、今後が楽しみです。



▲入居企業の見学



▲入居企業との懇談

見聞の特派員レポート

「平和祈念パネル展」を訪ねて 国民保護を考える

まちの見聞特派員 鈴木 洋志

令和4年3月11日~16日に、「平和祈念パネル展示会」が和光市民文化センターの展示ホールで開催されました。今年は思いもよらないロシアによるウクライナ侵攻が起こり、リアリティーをもって写真パネルを見ることができました。展示には辛い写真もありましたが、新倉小学校に爆弾が落ちたことや、延焼防止のためバケツリレーが行われたことなど、まちの歴史を身近に感じることもできました。見学に訪れたお父さんが子供たちに「いまウクライナで起こってるね」と諭すように声をかけているのが印象的でした。

市では、ウクライナ避難民の受け入れを考えている市民の相談窓口を設置しました。また、市議会はロシアによるウクライナへの侵攻に対する抗議決議を全会一致で可決しました。ウクライナ人道危機救援金の受付も市役所で行われています。

ところで、市は平成19年に和光市国民保護計画を策定し、令和3年に見直しをしています。弾道ミサイルが日本に飛来する可能性がある場合には、国が発信した緊急情報を市の防災行政無線等から流して伝達します。また、弾道ミサイル発射直後にとるべき行動について、HPで公開しています。しかし、和光市では市民参加型の国民保護訓練は行われていないようです。

平和パネル展に展示された状態が起こったとき、どのように行動するのか子供たちに伝える活動が必要であると感じました。



平和祈念パネル展示会の様子